

令和4年度 研究推進全体構想

<穂積小学校の教育目標>

「かしこくて
あたたかくて
たくましい子」
自立力 → 進んで学ぶ
確かな学力 工夫
共生力 → 思いやりの心
認め高まりあう仲間
自己実現力 → 粘り強くやり抜く

<穂積小学校の児童の実態>

○自身の考えを、図や式、言葉を駆使して説明する力が付いてきた。
○考え方の違いや共通点に着目することで、深く学ぼうとする姿が見られた。
○主体的に学び続ける意識が高まってきた。(R3 学力調査より)
▲仲間のお話を納得するまで聞いたり、聞き返したりする姿が少ない。
▲学んだことを次に生かそうとする意識までは育っていない。

研究テーマ

仲間と共にいきいきと学び続ける児童の育成

～算数科における単元及び単位時間の工夫を通して～

<研究仮説>

算数科において、児童の実態に応じた単元指導計画の構成を工夫する。そして、深い学びを生み出すための課題化、全体追究、終末の工夫をすれば、単元を通して仲間と共にいきいきと学び続ける児童が育つ。

・「いきいきと」とは

「どうするとできるかな」「こうしたら解決できるのではないかな」「何か他に方法はないかな」「この考え方なら他にも使えそうだ」などと、主体的に学習に取り組む姿。

・「学び続ける」とは

単元を通して、一人一人が目的意識をもち続け、習得した知識・技能を活用しながら、仲間と協力して、自分たちの力で問題解決をしたり、学んだことを生かそうとしたりする姿。

・「深い学び」とは

対話を通して見方や考え方を獲得したり納得したりできること

(**発見**): 気づき (**深まり**): 説明できる (**広がり**): 活用できる)

<研究内容>

- I 単位時間の役割を明確にした単元指導計画の工夫
- II 深い学びを生み出すための単位時間の工夫
 - ① 学ぶ必然を生み出す課題化の工夫
 - ② 仲間と共に深い学びを生み出す手立ての工夫
特支 深い学びを生み出す個に応じた指導・援助の工夫
 - ③ 学んだことを生かすための終末の工夫

研究を支える土台

- A 子どもたちが学び方の基本を身に付け、「分からない」「困っている」子を大切にできる学習集団作り
- B 聞く・話す指導の充実
- C 一人一人の確かな学びにつながる指導・援助の工夫